

# 第49回 中央区政 世論調査

概要版

令和元年7月実施

【調査の項目】

- 1 定住性
- 2 防災対策
- 3 健康診査
- 4 高齢者施策
- 5 子育て支援
- 6 男女共同参画社会
- 7 防犯対策
- 8 スポーツ
- 9 区民のふれあい・交流
- 10 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
- 11 築地魚河岸
- 12 施策の要望・評価

【調査対象】中央区に居住する満18歳以上の男女個人（外国人区民を除く）

【対象者】2,000人

【抽出方法】無作為抽出法

令和元年6月1日現在の住民基本台帳に登録された  
満18歳以上の男女133,075人から一定の割合で系統的に抽出

【調査方法】郵送法（郵送に準じた配布・郵送回収）

【調査時期】令和元年7月1日（月）～7月17日（水）

【調査機関】株式会社エスピー研

【回収結果】回収数 956 回収率 47.8%

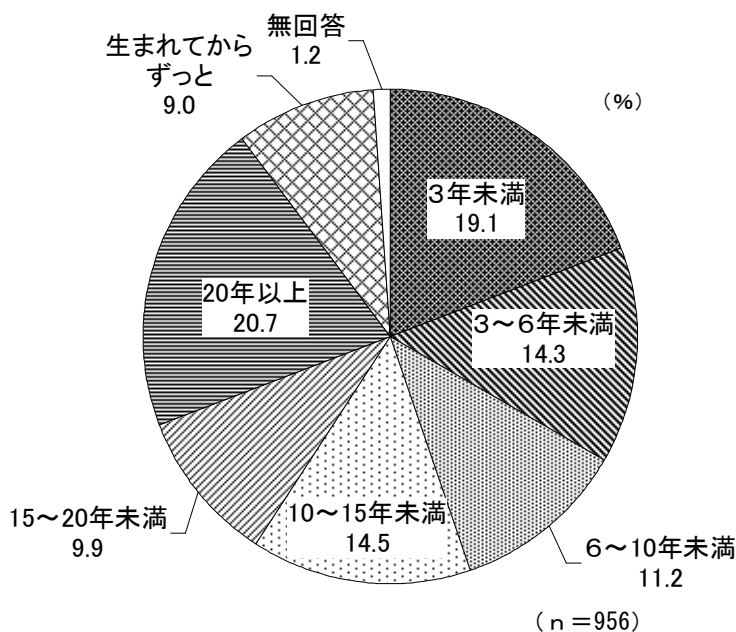


# 1 定住性

## ■ 居住年数

『短期居住者』（「3年未満」と「3～6年未満」の合計）は33.4%で3割を超えている。『中期居住者』（「6～10年未満」、「10～15年未満」および「15～20年未満」の3つの合計）は35.6%で3割台半ば、『長期居住者』（「20年以上」と「生まれてからずっと」の合計）は29.7%で3割となっている。

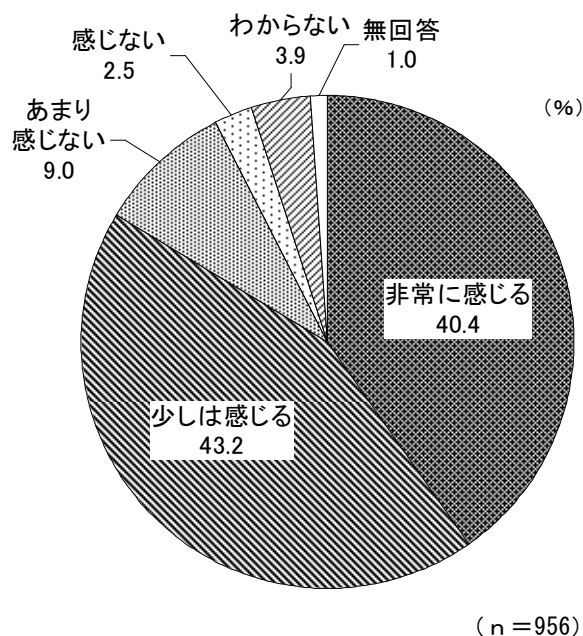
過去の調査結果と比較すると、平成26年以降大きな傾向の違いはみられない。



## ■ 愛着心

『感じる』（「非常に感じる」と「少しは感じる」の合計）は83.6%で8割を超えている。一方、『感じない』（「あまり感じない」と「感じない」の合計）は11.5%で1割を超えている。

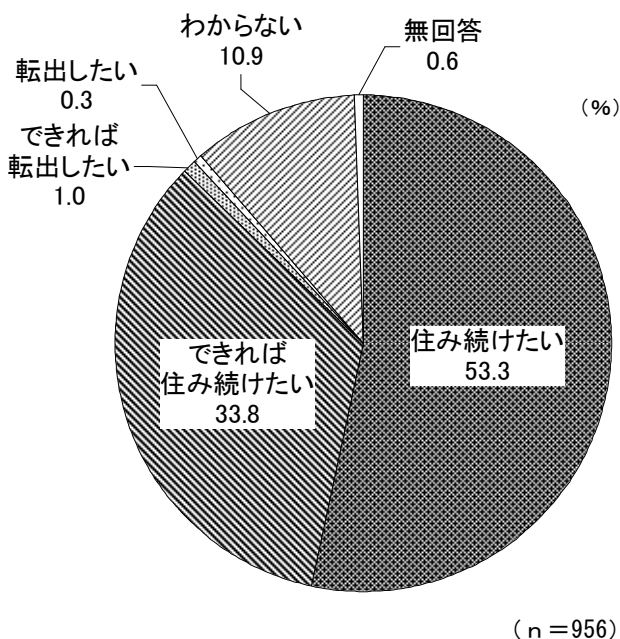
過去の調査結果と比較すると、『感じる』は平成18年以降8割台で推移している。



## ■ 定住意向

『定住意向』（「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」の合計）は87.1%で9割近くとなっている。一方、『転出意向』（「できれば転出したい」と「転出したい」の合計）は1.3%にとどまっている。

過去の調査結果と比較すると、『定住意向』は平成30年と比べて2.6ポイント増加しており、平成22年（88.4%）以来の高い割合となっている。

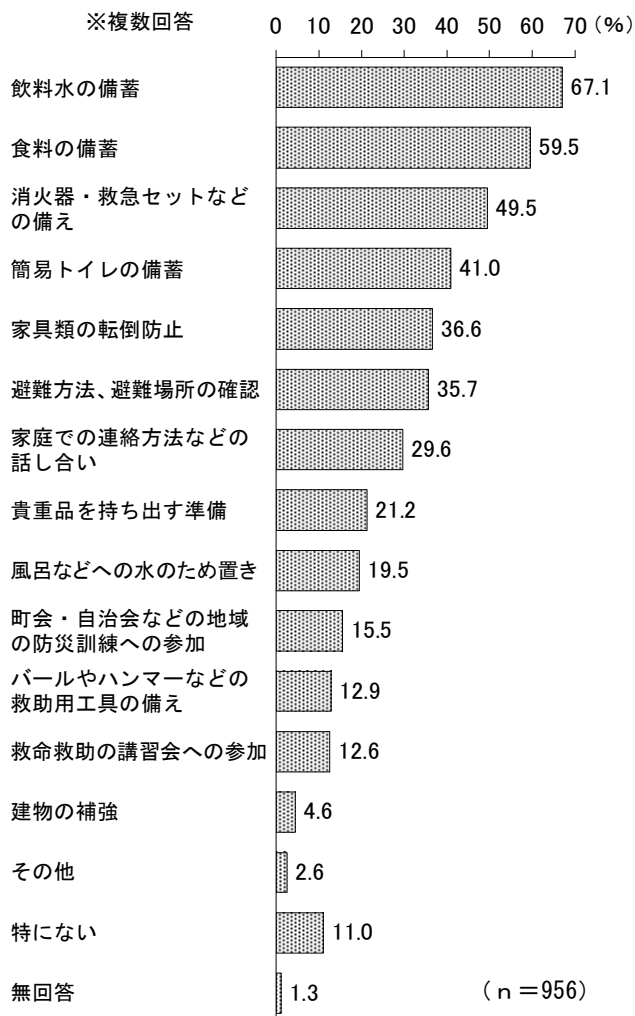


## 2 防災対策

### ■家庭での災害に対する備え

「飲料水の備蓄」(67.1%)が7割近くで最も高くなっている。次いで、「食料の備蓄」(59.5%)、「消火器・救急セットなどの備え」(49.5%)、「簡易トイレの備蓄」(41.0%)、「家具類の転倒防止」(36.6%)、「避難方法、避難場所の確認」(35.7%)などとなっている。

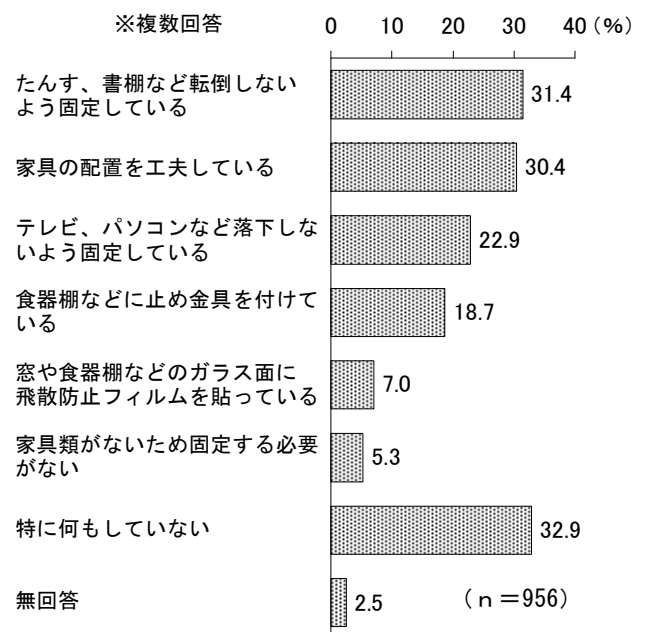
昨年の調査結果と比較すると、「食料の備蓄」は5.3ポイント、「飲料水の備蓄」は3.7ポイント、「簡易トイレの備蓄」は3.6ポイント、それぞれ増加している。



### ■家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え

「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」(31.4%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「家具の配置を工夫している」(30.4%)、「テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している」(22.9%)、「食器棚などに止め金具を付けている」(18.7%)などとなっている。また、「特に何もしていない」(32.9%)は3割を超えている。

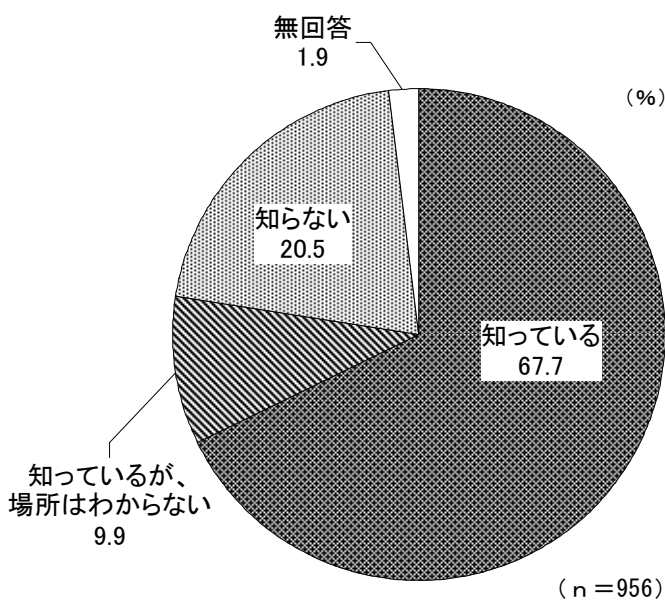
昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。



## ■防災拠点の認知度

「知っている」(67.7%)が7割近くで最も高くなっている。「知っているが、場所はわからない」(9.9%)は1割で、「知らない」(20.5%)は約2割となっている。

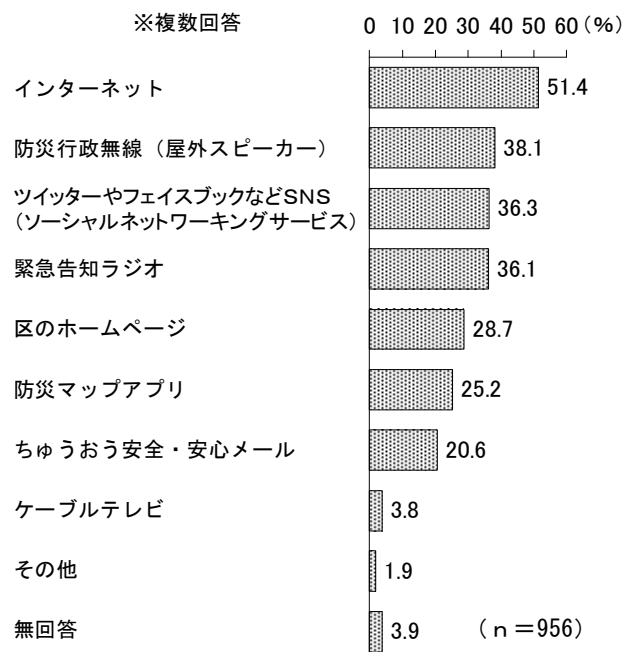
過去の調査結果と比較すると、「知っている」は平成30年と比べて4.9ポイント増加しており、今回調査が過去最高の割合となっている。



## ■災害情報を得る手段として有効だと思うもの

「インターネット」(51.4%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「防災行政無線(屋外スピーカー)」(38.1%)、「ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」(36.3%)、「緊急告知ラジオ」(36.1%)、「区のホームページ」(28.7%)などとなっている。

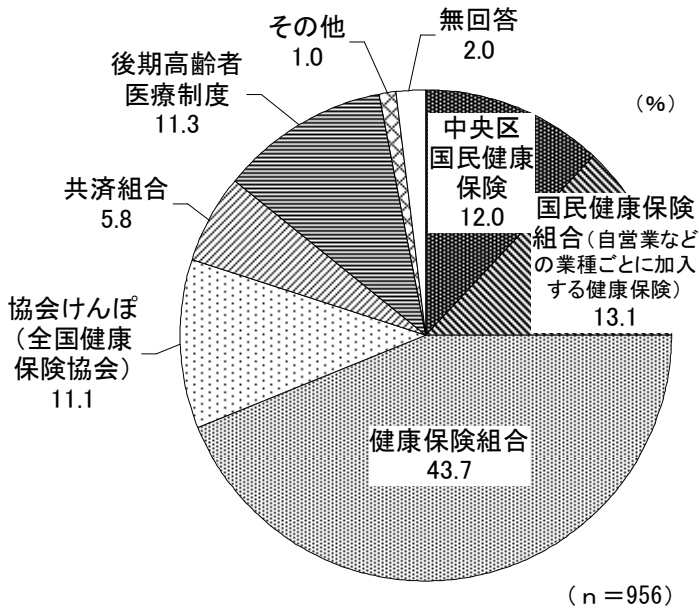
昨年の調査結果と比較すると、「防災マップアプリ」は6.2ポイント増加している。一方、「インターネット」は3.2ポイント減少している。



### 3 健康診査

#### ■ 加入している健康保険

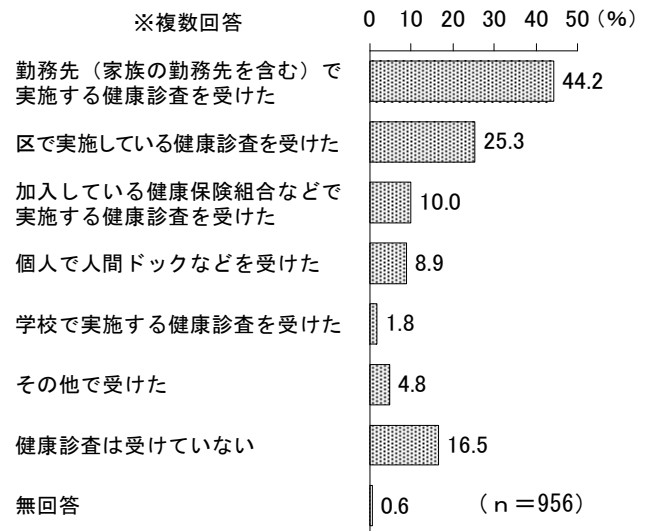
「健康保険組合」(43.7%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「国民健康保険組合(自営業などの業種ごとに加入する健康保険)」(13.1%)、「中央区国民健康保険」(12.0%)、「後期高齢者医療制度」(11.3%)、「協会けんぽ(全国健康保険協会)」(11.1%)などとなっている。



#### ■ 健康診査の受診状況

「勤務先(家族の勤務先を含む)で実施する健康診査を受けた」(44.2%)が4割台半ばで最も高くなっている。次いで、「区で実施している健康診査を受けた」(25.3%)、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」(10.0%)、「個人で人間ドックなどを受けた」(8.9%)などとなっている。また、「健康診査は受けていない」(16.5%)は2割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

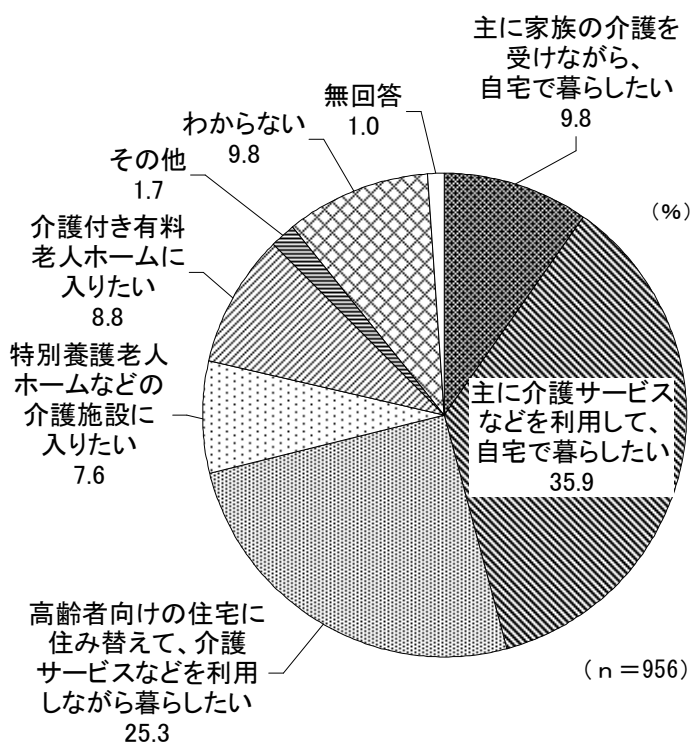


## 4 高齢者施策

### ■要介護時における暮らし方

「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」(35.9%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」(25.3%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(9.8%)、「介護付き有料老人ホームに入りたい」(8.8%)などとなっている。

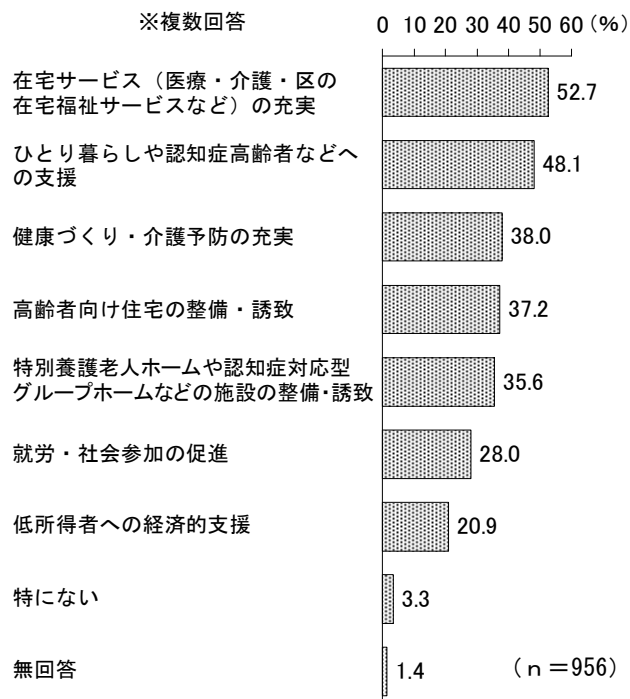
昨年の調査結果と比較すると、「特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」は2.5ポイント減少している。



### ■区に望む高齢者保健福祉サービス

「在宅サービス(医療・介護・区の在宅福祉サービスなど)の充実」(52.7%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」(48.1%)、「健康づくり・介護予防の充実」(38.0%)、「高齢者向け住宅の整備・誘致」(37.2%)、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」(35.6%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は3.7ポイント、「在宅サービス(医療・介護・区の在宅福祉サービスなど)の充実」は3.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「高齢者向け住宅の整備・誘致」は3.9ポイント、「健康づくり・介護予防の充実」は3.3ポイント、それぞれ減少している。

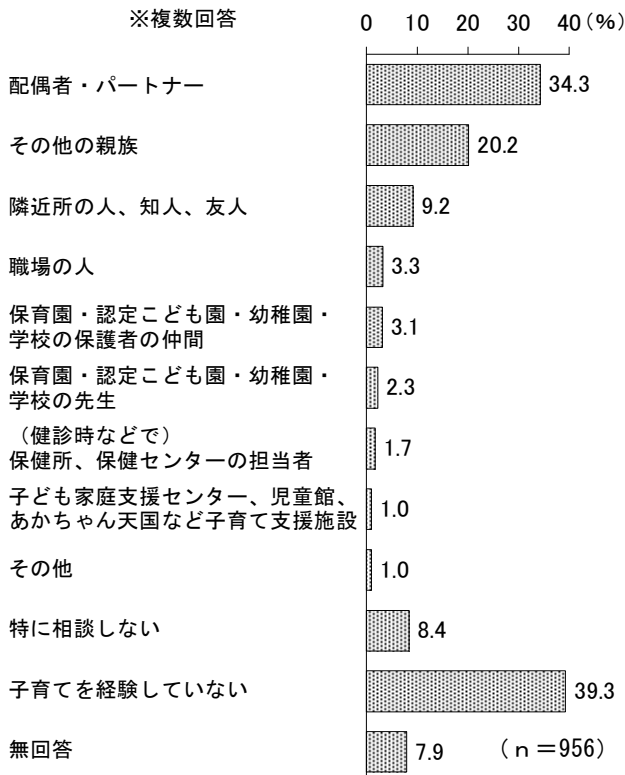


## 5 子育て支援

### ■ 子育てに関する悩みの相談

「配偶者・パートナー」(34.3%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「その他の親族」(20.2%)、「隣近所の人、知人、友人」(9.2%)、「職場の人」(3.3%)、「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」(3.1%)などとなっている。

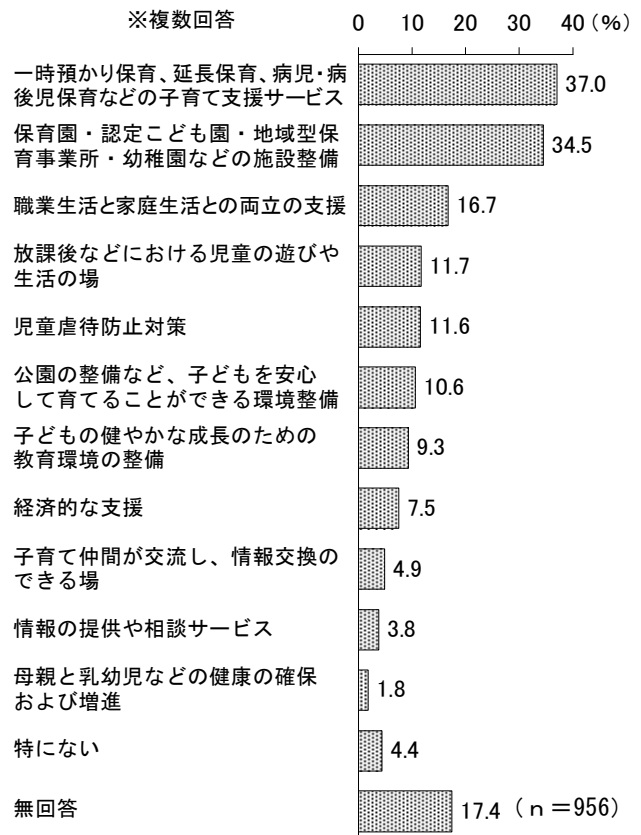
昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。



### ■ 重要と考える子育て支援策

「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(37.0%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(34.5%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(16.7%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(11.7%)、「児童虐待防止対策」(11.6%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「児童虐待防止対策」は5.0ポイント増加している。一方、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は8.3ポイント、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は3.2ポイント、それぞれ減少している。

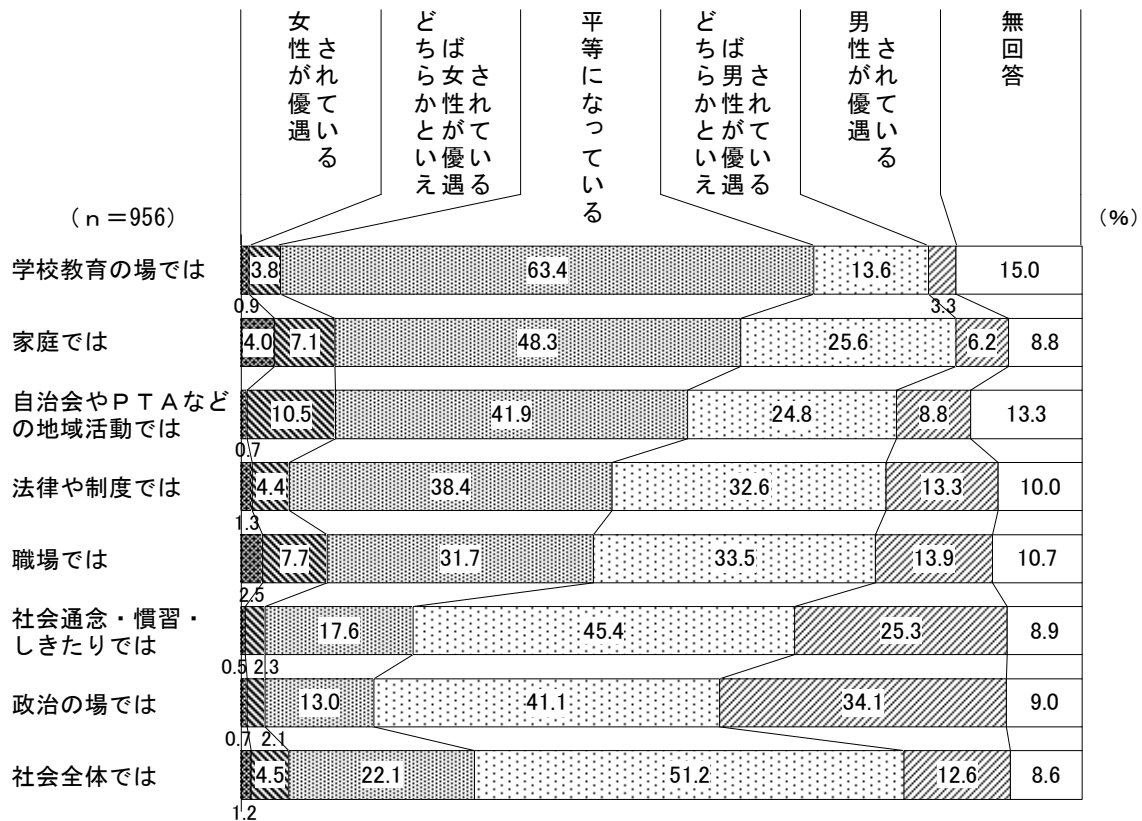


## 6 男女共同参画社会

### ■男女の地位の平等感

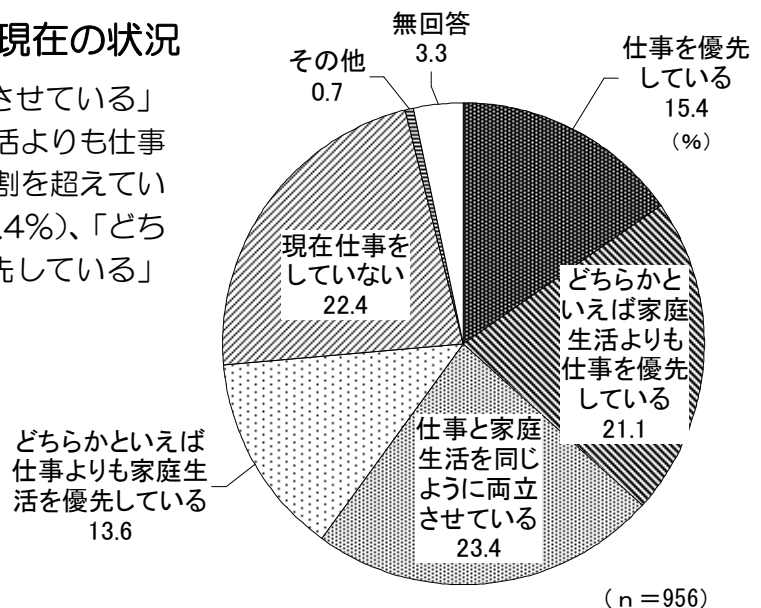
「平等になっている」と感じるのは、“学校教育の場では”（63.4%）で6割を超えて最も高く、次いで“家庭では”（48.3%）で5割近くとなっている。

「どちらかといえば男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』と感じるのは、“政治の場では”（75.2%）で7割台半ばと最も高く、次いで“社会通念・慣習・しきたりでは”（70.7%）で約7割となっている。



### ■ワーク・ライフ・バランスの現在の状況

「仕事と家庭生活を同じように両立させている」（23.4%）と「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」（21.1%）がともに2割を超えている。次いで、「仕事を優先している」（15.4%）、「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」（13.6%）などとなっている。



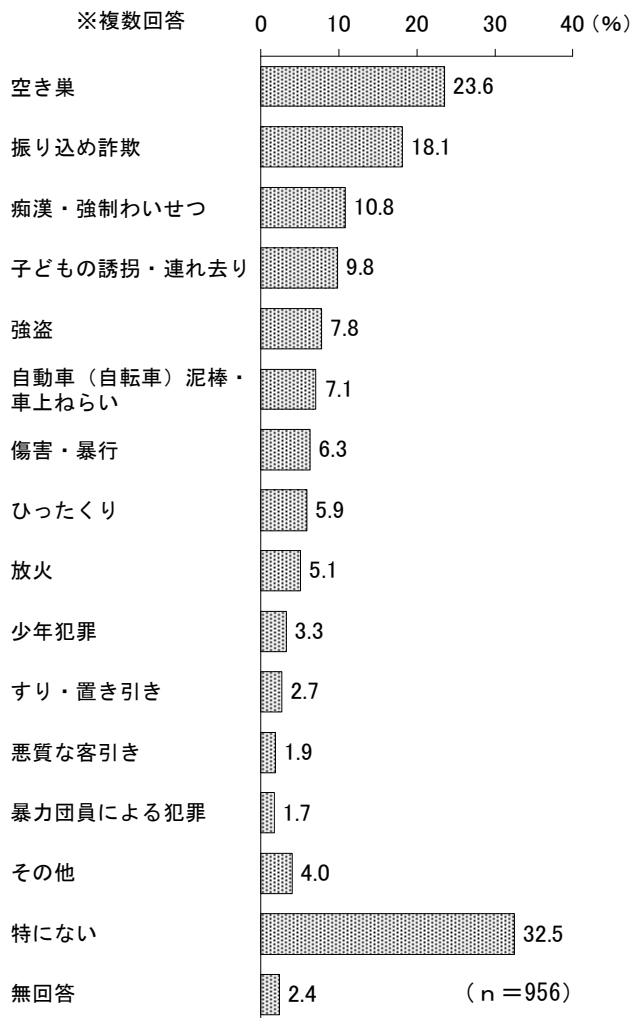


# 7 防犯対策

## ■不安に感じる犯罪

「空き巣」(23.6%)が2割を超えている。次いで、「振り込め詐欺」(18.1%)、「痴漢・強制わいせつ」(10.8%)、「子どもの誘拐・連れ去り」(9.8%)、「強盗」(7.8%)などとなっている。また、「特にない」(32.5%)は3割を超えている。

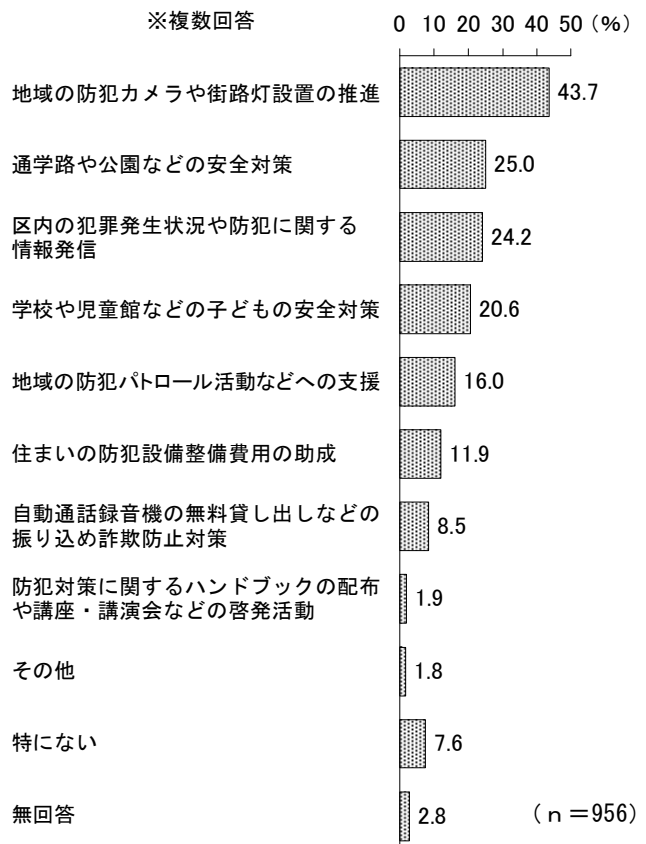
昨年の調査結果と比較すると、「強盗」は3.1ポイント増加している。一方、「子どもの誘拐・連れ去り」は4.3ポイント減少している。



## ■区に特に力を入れてほしい施策

「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」(43.7%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「通学路や公園などの安全対策」(25.0%)、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」(24.2%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(20.6%)、「地域の防犯パトロール活動などへの支援」(16.0%)などとなっている。

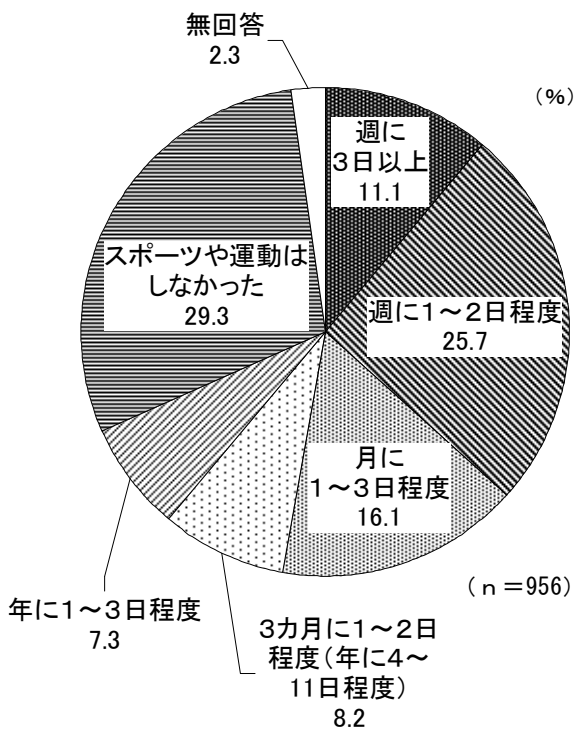
昨年の調査結果と比較すると、「自動通話録音機の無料貸し出しなどの振り込め詐欺防止対策」の選択肢が追加されたため単純に比較することはできないが、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」は4.1ポイント増加している。一方、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は7.4ポイント減少している。



## 8 スポーツ

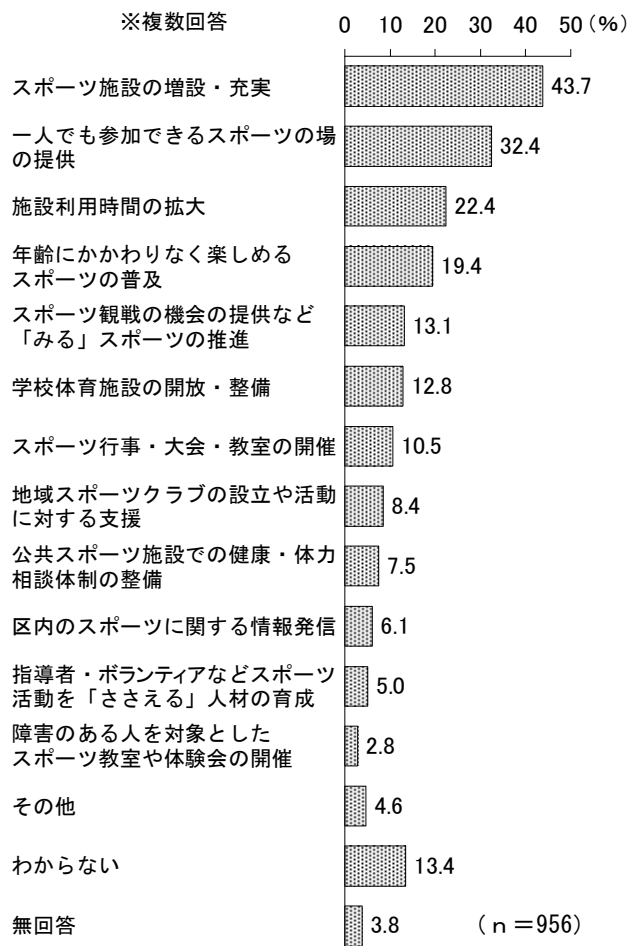
### ■ 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度

「週に1～2日程度」(25.7%)が2割台半ばとなっている。次いで、「月に1～3日程度」(16.1%)、「週に3日以上」(11.1%)、「3カ月に1～2日程度(年に4～11日程度)」(8.2%)などとなっている。また、「スポーツや運動はしなかった」(29.3%)は約3割となっている。



### ■ スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと

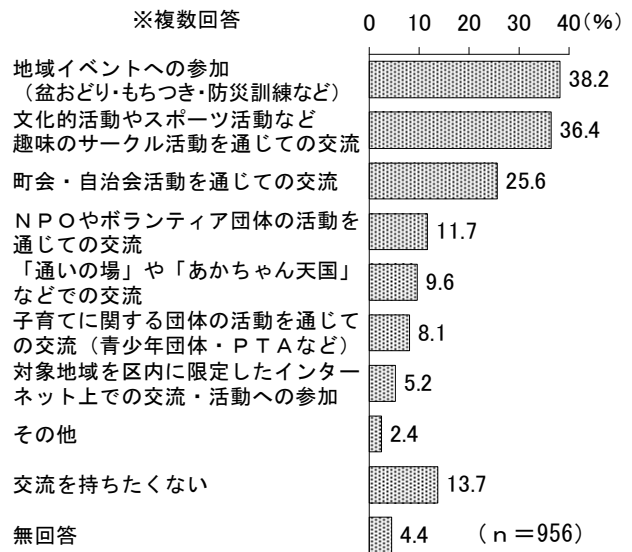
「スポーツ施設の増設・充実」(43.7%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「一人でも参加できるスポーツの場の提供」(32.4%)、「施設利用時間の拡大」(22.4%)、「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」(19.4%)、「スポーツ観戦の機会の提供など『みる』スポーツの推進」(13.1%)などとなっている。



## 9 区民のふれあい・交流

### ■ 地域の方との交流を持つ機会

「地域イベントへの参加（盆おどり・もちつき・防災訓練など）」（38.2%）が4割近くで最も高くなっている。次いで、「文化的活動やスポーツ活動など趣味のサークル活動を通じての交流」（36.4%）、「町会・自治会活動を通じての交流」（25.6%）、「NPOやボランティア団体の活動を通じての交流」（11.7%）などとなっている。

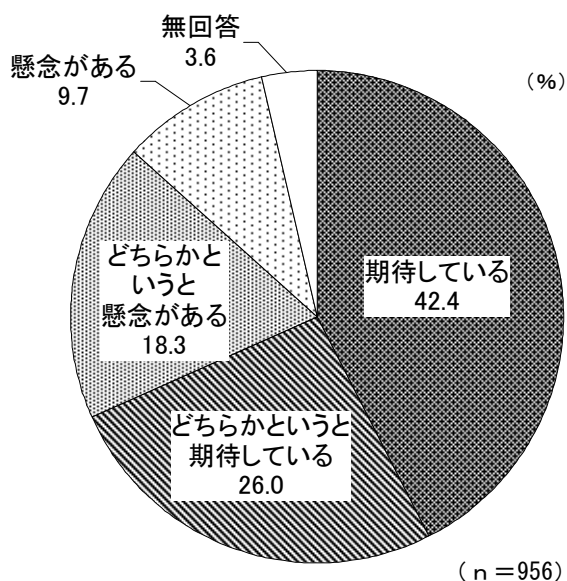


## 10 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

### ■ 東京2020大会への思い

「期待している」（42.4%）が最も高くなっており、「どちらかという期待している」（26.0%）と合わせた『大会への期待』（68.4%）が7割近くとなっている。一方、「どちらかという懸念がある」（18.3%）と「懸念がある」（9.7%）を合わせた『大会への懸念』（28.0%）は3割近くとなっている。

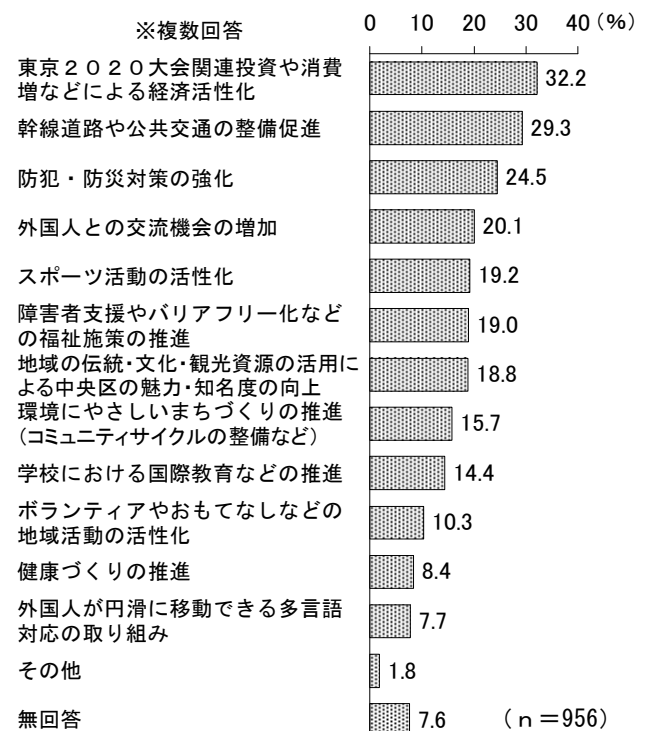
過去の調査結果と比較すると、『大会への期待』は平成28年以降増加傾向にある。



### ■ 東京2020大会の開催に伴い期待していること

「東京2020大会関連投資や消費増などによる経済活性化」（32.2%）が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「幹線道路や公共交通の整備促進」（29.3%）、「防犯・防災対策の強化」（24.5%）、「外国人との交流機会の増加」（20.1%）などとなっている。

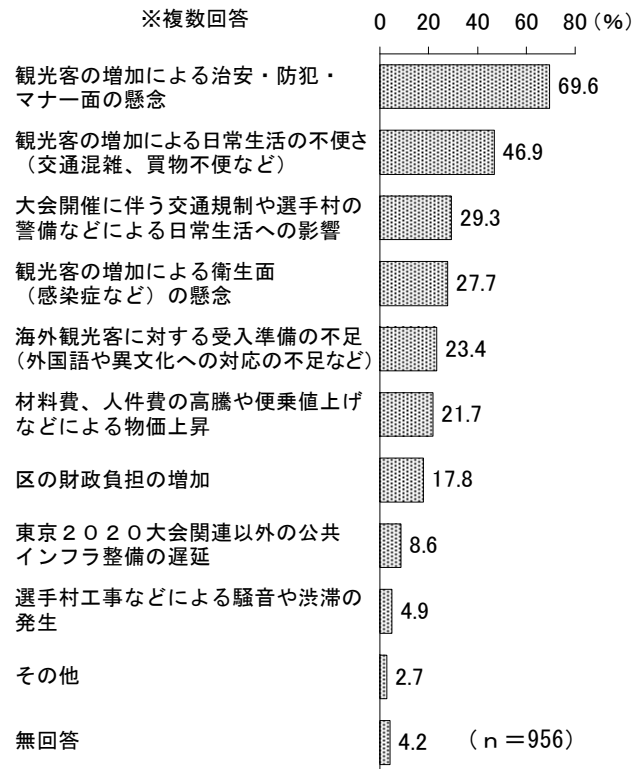
昨年の調査結果と比較すると、「スポーツ活動の活性化」は3.2ポイント増加している。



## ■東京2020大会の開催に伴い懸念していること

「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」(69.6%)が7割で最も高くなっている。次いで、「観光客の増加による日常生活の不便さ(交通混雑、買物不便など)」(46.9%)、「大会開催に伴う交通規制や選手村の警備などによる日常生活への影響」(29.3%)、「観光客の増加による衛生面(感染症など)の懸念」(27.7%)、「海外観光客に対する受入準備の不足(外国語や異文化への対応の不足など)」(23.4%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「観光客の増加による日常生活の不便さ(交通混雑、買物不便など)」は8.2ポイント、「大会開催に伴う交通規制や選手村の警備などによる日常生活への影響」は6.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「観光客の増加による衛生面(感染症など)の懸念」は7.9ポイント、「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」は6.6ポイント、それぞれ減少している。

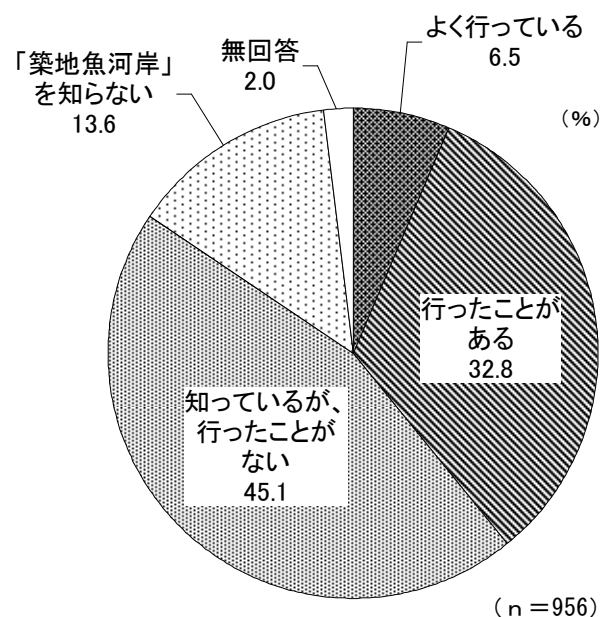


## 11 築地魚河岸

### ■「築地魚河岸」への来場経験

『来場経験あり』(「よく行っている」と「行ったことがある」の合計)は39.3%で約4割となっている。一方、「知っているが、行ったことがない」は45.1%で4割台半ば、「『築地魚河岸』を知らない」は13.6%で1割を超えている。

昨年の調査結果と比較すると、「知っているが、行ったことがない」は4.9ポイント増加している。一方、「『築地魚河岸』を知らない」は3.5ポイント減少している。



# 12 施策の要望・評価

## ■区の施策の満足度

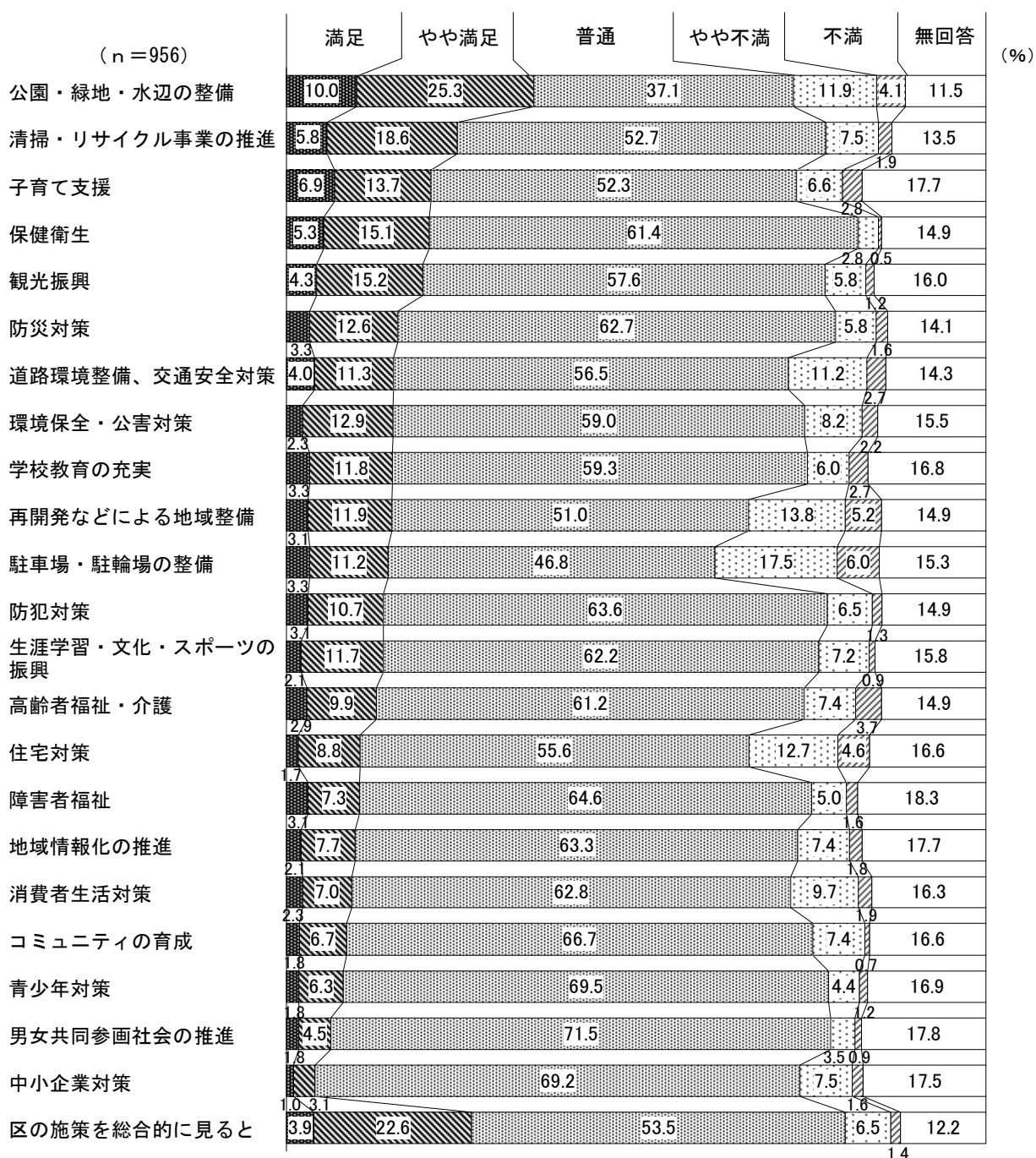
「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満足』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

『満足』

- ①公園・緑地・水辺の整備 (35.3%)
- ②清掃・リサイクル事業の推進 (24.4%)
- ③子育て支援 (20.6%)
- ④保健衛生 (20.4%)
- ⑤観光振興 (19.5%)

『不満足』

- ①駐車場・駐輪場の整備 (23.5%)
- ②再開発などによる地域整備 (19.0%)
- ③住宅対策 (17.3%)
- ④公園・緑地・水辺の整備 (16.0%)
- ⑤道路環境整備、交通安全対策 (13.9%)



## ■区の施策の重要度

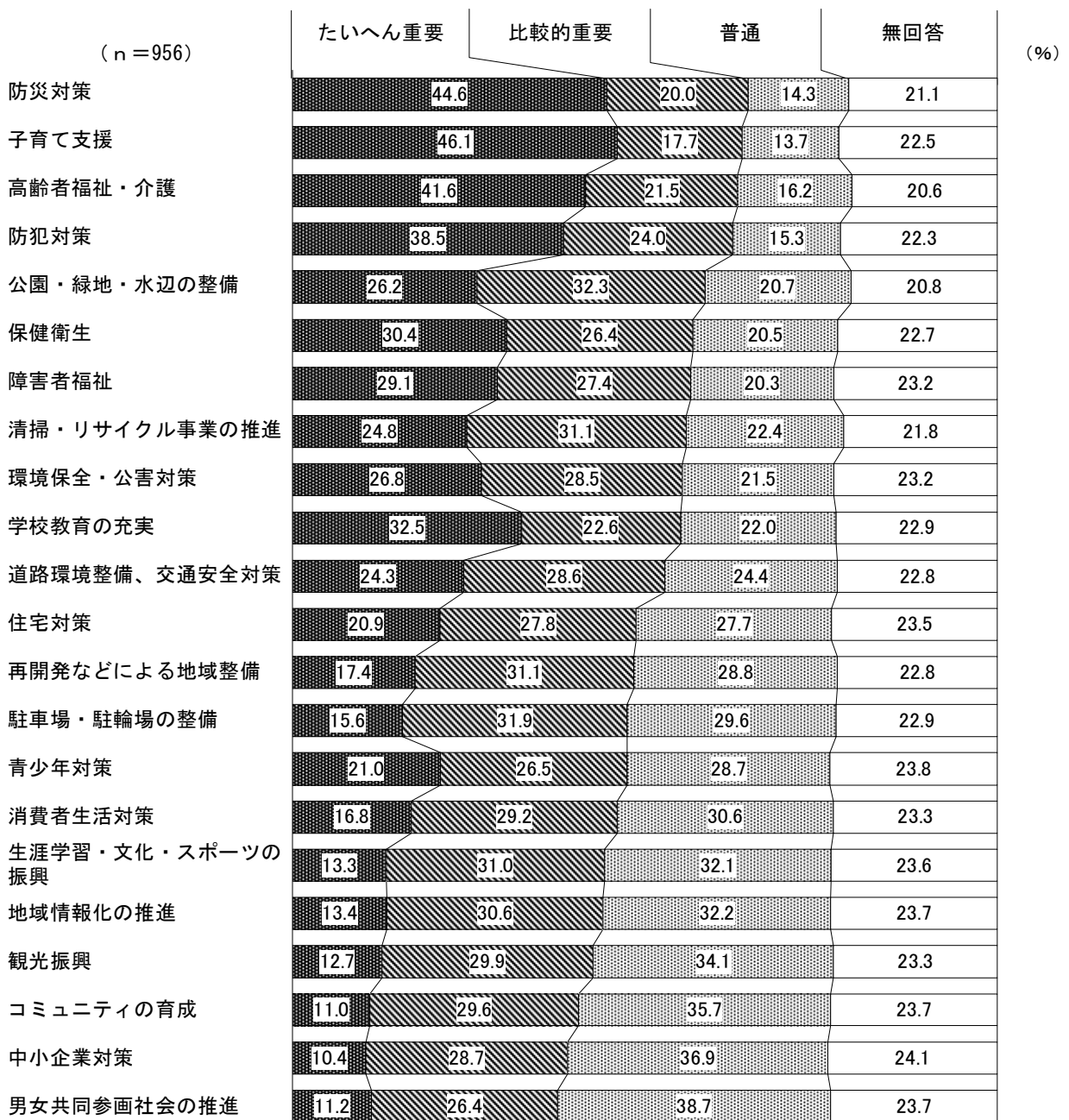
「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

上位

①防災対策	(64.6%)
②子育て支援	(63.8%)
③高齢者福祉・介護	(63.1%)
④防犯対策	(62.5%)
⑤公園・緑地・水辺の整備	(58.5%)

下位

①男女共同参画社会の推進	(37.6%)
②中小企業対策	(39.1%)
③コミュニティの育成	(40.6%)
④観光振興	(42.6%)
⑤地域情報化の推進	(44.0%)



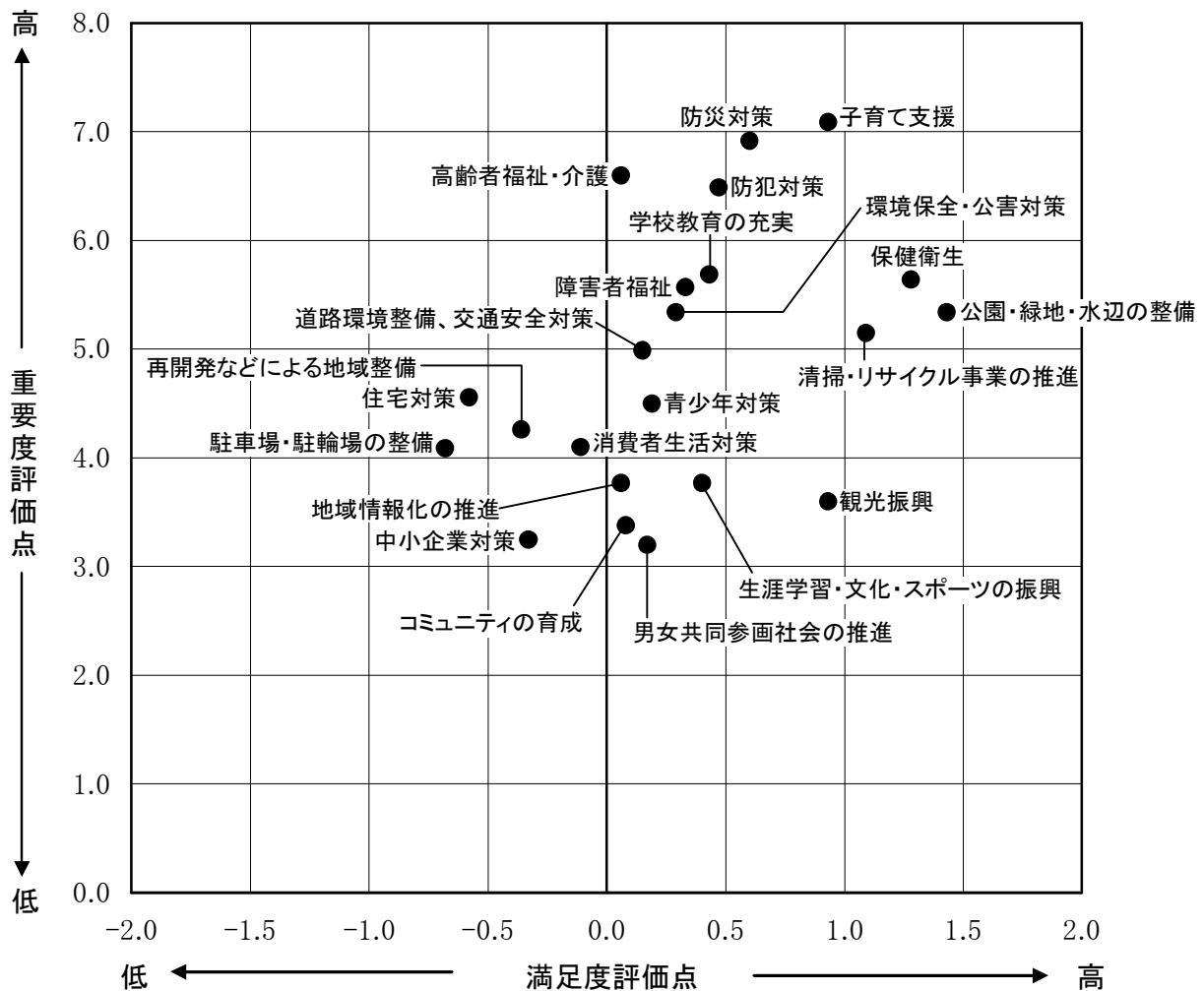
## ■ 区の施策の満足度と重要度の相関

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。それぞれの算出方法は以下の通りである。

$$\text{満足度評価点} = \frac{(\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times \blacktriangle 5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times \blacktriangle 10 \text{点})}{\text{回答者数} - \text{無回答者数}}$$

$$\text{重要度評価点} = \frac{(\text{「たいへん重要」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「比較的重要」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点})}{\text{回答者数} - \text{無回答者数}}$$

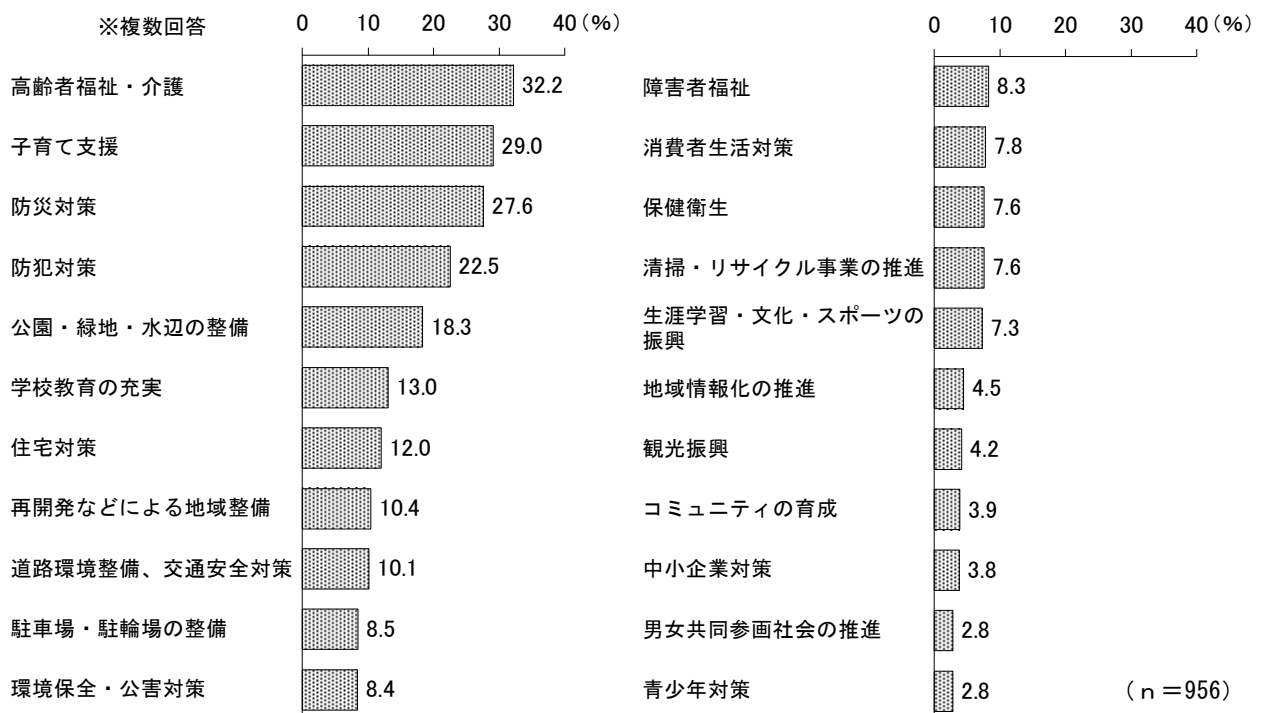
このグラフでは、満足度評価が低く、重要度評価が高い領域（左上方）にある項目が比較的住民ニーズが高いもので、今後の行政課題となるものと考えられる。



## ■ 区の施策への要望

「高齢者福祉・介護」(32.2%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「子育て支援」(29.0%)、「防災対策」(27.6%)、「防犯対策」(22.5%)、「公園・緑地・水辺の整備」(18.3%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「防災対策」は4.0ポイント増加している。一方、「子育て支援」は4.8ポイント、「高齢者福祉・介護」は3.0ポイント、それぞれ減少している。



## 第49回 中央区政世論調査

令和元年11月

発行 中央区企画部広報課  
中央区築地1丁目1番1号  
03(3546)5222(直通)

実施 株式会社エスピー研  
千代田区飯田橋3丁目11番20号  
03(3239)0071

刊行物登録番号  
31-071